

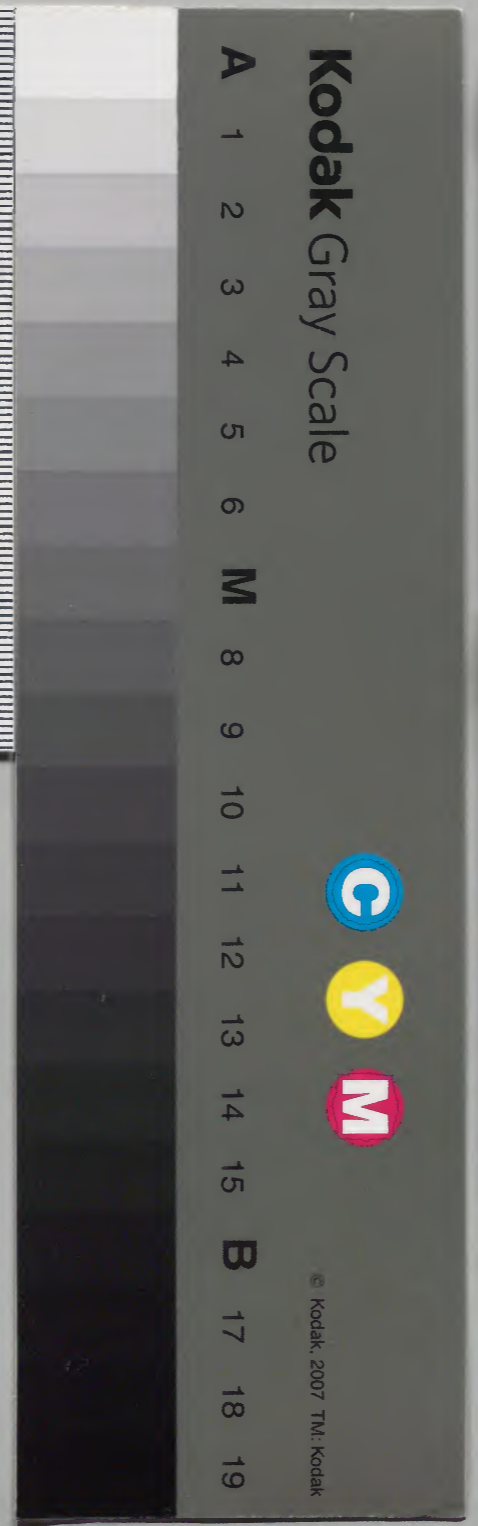
# 安政見聞誌 上

和書門  
二八〇八八  
一〇八八  
一〇八八  
三冊架函號類

庫文閣内  
六函二架  
二八〇八八  
三冊架函號類

内閣文庫	
番號	和 28088
冊數	3 ( 1 )
函號	166 416

166-416





の更と終り。南過一掃ゆりし。小。今年安政二年十月  
二日夜亥時。大地震あり。大江戸迄國四方廿里はうら。皆  
此災ありのなり。世の中よりとき大江戸市中を以て  
太酷といはん。柏木地動の發より地層は大地の音の如き  
響きあり。忽地上激浪のうねり如く震動す。地裂天陽寺りと  
驚り。れ。百万の人家。倉庫神社佛寺傾覆し。是が為ふ  
井殺されしもの。歳をくるといふ數あり。或は梁ふちり  
或はぐらぐら揺りたられ。又瓦を振。之階の下り。影れ  
土藏の壁や埋れ。なじし。男女老若。泣きけり。

助ありとれ。死し。あり。よ。の。火  
ま。四方より谷と燧出。終天。成。寸。人。今。畏れあり。  
た。心。神。混。乱。酔。り。如。あ。路。が。消。え。ん  
と。念。あり。火。ち。四。戸。を。迫。り。が。一。人。二十。余。所  
に。見え。何。ま。の。万。り。風。如。き。あ。り。市。中。は。う。ら  
なく。揺。れ。ぬ。ん。と。必。せ。う。と。い。ゆ。さ。ん。夜。幸。ひ。風。を  
も。静。し。火。勢。弱。く。火。を。た。き。及。む。が。火。消。人。は  
あ。り。甚。く。あ。り。し。城。ち。く。な。り。あ。り。は。消。し。あ。り  
あり。是。を。う。り。災。の。中。は。幸。ひ。め。く。夜。風。あ。り。



標目

寺

日本橋南方系橋と東西町  
 南橋馬町二丁目北方系と  
 日清地志之男女聖堂  
 地蔵之怪童と之なる  
 龍泊人小町之なる  
 大川橋北方系地志系永代  
 永代橋東方深川一系  
 回仲丁橋乳之系  
 如念木場より寺町之系  
 俣野修丁東方側橋大橋之系  
 新大橋東方本町系  
 古北橋下丁より系  
 日東方橋江色町系  
 本町天神川橋より江戸一貫之系  
 回向院旅籠鬼之系

八七六五四三二

九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八

小名木川筋町系  
 本町徳右衛門丁系  
 日相生丁橋系  
 日東方花丁系  
 本町石原系  
 日中系  
 日荒井町系  
 日北割下系  
 本町又目系  
 龜戸天神川系  
 小橋より出村丁系  
 千住小塚系

仲之卷

二十

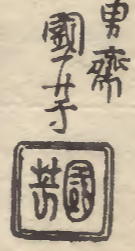
本原郭中衣紋板系  
 村山源系



廿九 仙臺 彦彦 仁意 仁事  
 強池 劍鏡 矢落所  
 卅 幸橋 四門 内武家方  
 日比谷 歩門 内日所  
 卅一 廣持 池系 小川 丁一系  
 日北 方小 石川 歩門 内西  
 荒布 橋より 西云 霧乃 名馬  
 八代 別河 岸六 名小 橋  
 馬場 前右 岸一 馬  
 卅二 和田 金歩 門内 西  
 大子 茶煖 矢落 所  
 卅三 地養 後強 池一 馬  
 卅四  
 卅五  
 卅六

右通斗四十六章 画巻式十八系 該煖所等  
 其地色不詳 あり三卷 總標目 畢

△日本橋の南方中橋と表側被換 一勇齋  
 少一日雨西方海峯の吳殿丁敷寄屋  
 檜物丁上林丁南橋丁辺被換  
 日東方日布平松丁小松丁  
 流屋丁綿屋丁新着場埋立地  
 大橋丁松門丁本林本丁六丁目との中家敷す大被換為家  
 潰敷多し一坪一坪の内能入  
 一 白米云升 一組十丁中又橋寄者一坪  
 一 沙針云百貫文 組一より百貫小文



河村 徳左衛門  
 水菜小波世  
 年お出門  
 市云云  
 次云云  
 春云云  
 仁云云  
 八人







一 濱野子六百貫文 五十兩に取らるる也

一 濱野子六百貫文 右日也

一 白米五升文 毎石四兩を以て

① 南張治丁指押屋敷の事 濱野子組屋丁平丁大根河巻を以て濱野子組屋敷

具足丁炭丁因幡丁柳丁杉木丁今月河巻を以て濱野子組屋敷の事 濱野子組屋敷

△海濱指押本丁牧野屋敷上平丁山本宅被換九鬼屋敷と屋敷表側西へ大被換

細川頼中申元被換林田代地巻の事 頼中屋敷上平丁大被換河巻の上巻

濱野子組屋丁手搦新代地被換屋敷の事 本丁屋敷を以て同日大被換河巻

相屋西石垣被換合本丁本日答丁の事 大被換富家屋敷の事 海濱丁八丁路に組

屋敷被換屋敷の事 日本土月八日秋水答丁の事 大川由方水答丁日下地丁竹

俣丁針丁手搦申元地巻指押を以て焼辻辺地巻の事 同日申元俣丁兼河巻被

換山王地巻指押石巻居り申元大被換日下巻俣場丁大被換本丁余屋敷

あり日下河巻を以て大被換

一 柳河原支團指押万治二年初て武徳の増巻より濱野子組屋敷の事 長

九十六石指押の群集事 濱野子組屋敷の事 濱野子組屋敷の事 濱野子組屋敷

の指押の事 濱野子組屋敷の事 濱野子組屋敷の事 濱野子組屋敷

濱野子組屋敷の事 濱野子組屋敷の事 濱野子組屋敷の事 濱野子組屋敷

濱野子組屋敷の事 濱野子組屋敷の事 濱野子組屋敷の事 濱野子組屋敷

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

一 濱野子六百貫文 五十兩に取らるる也

△靈岸河川申元巻河丁本河丁白河丁大被換本河丁被換大被換

日下地巻指押の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事

濱野子組屋敷の事





其一

徳令旨

はらへるる

なうらうら

その九段

すうあ

あ人の

助けて

困民の救

うら

うら



周徳の

作も改

あつ春と

逆門松の

海、夜室の

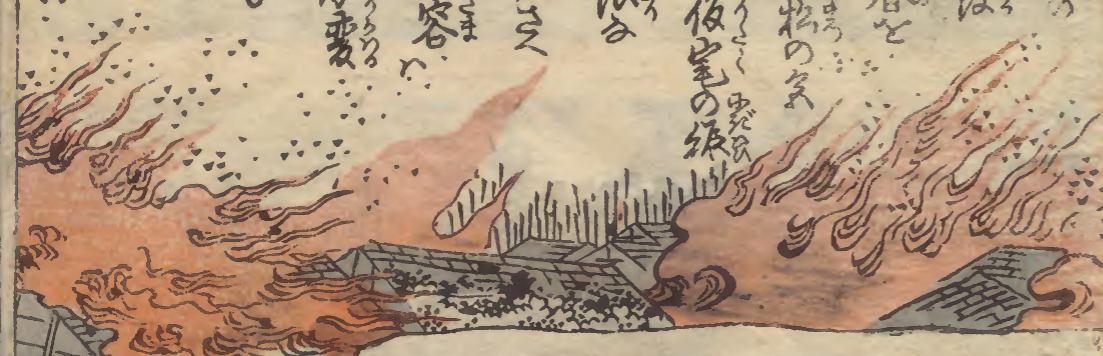
よう限

とて

解容

実核

人心





くらげ世の春さぐ  
 又る小江戸村丁  
 中々下のお六  
 名年の地着  
 大里屋ふり  
 信濃屋のま  
 あくぐ  
 飯尾の  
 家並  
 推考  
 の村集  
 家の上死  
 あり其堂  
 不知せん  
 開帳をせ  
 跡留のく今也  
 とあり針を  
 高る地もあ  
 げゆの文江戸の  
 せんせう  
 あり後の世  
 の出ふらふ  
 あり  
 ありあり







△月も町色津の寺裏の申の澤に川が奔馳石崩れはる澤中より及ぶ  
倉津と寺外被換中雲程津堂を失△日雨更岸寺裏の及澤中悉津れ  
も寺外被換日雨万祥も甚極る光る巨雲も亦大被換中内法  
も院院修禪等悉倒是れ半々也

⑤日雨伊勢崎下を丁目二丁目焼る

△日東方別邸希矢社々天境内修房を寺外兼屋未破換△六万坪細川被  
下屋密小笠原被下や一は被換中や一は林被換中一は澤山被換中一は  
出羽被換中一は日中石橋丁一橋被換中一は中多寺被換中一は兼方保  
徳被換中一は北被換中一は兼方田園被換中一は一は北河内方小笠原被  
兼方大破換為多一は日雨八丈の形田被換中一は日雨砂村被換中  
大塚送井元八橋小名木川筋並どの内は悉く被換△日東方一は  
村六十坪被換中一は北河内方一は

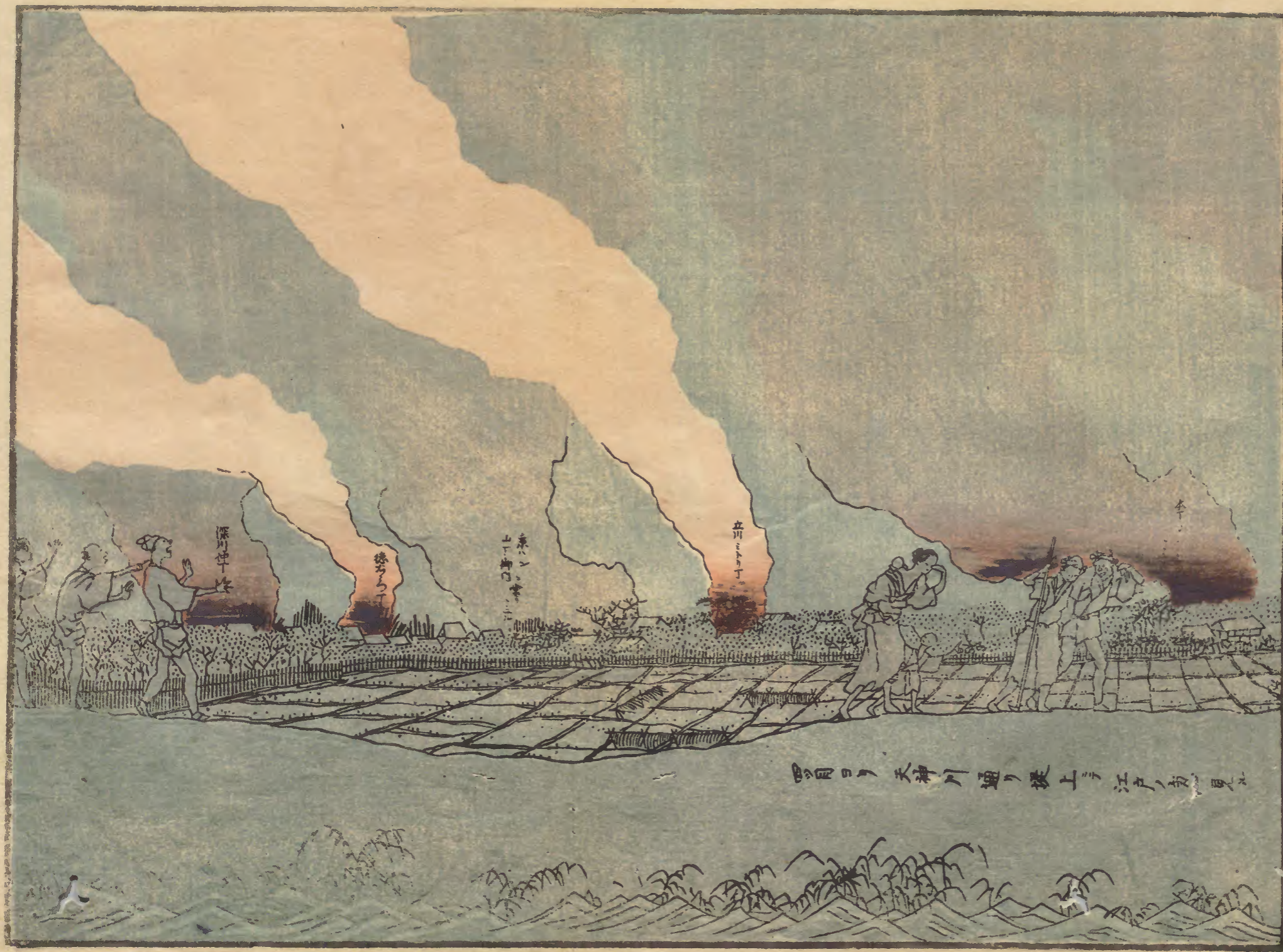
△何某候の家の中へ人主勅と幸取辺の屋敷に住まはるる十月二日  
の朝に付一ものありて重役某亦亦日今朝井の水濁り沙をこれに  
大地表の兆あり形重地のあるおは後一は大地表の甚き花ハ軽みあり  
か一は用心ゆへとのふ重役密に嘲笑く被換中後一はたふへ  
是を文にわたり猶又日夜を寺外へ大地表のあらんや後告の何れも笑て  
何条その表ありて死るどりのくを教むを後果して大地表を重役  
の甚極ハ極端一お云の中未極笑する人知らるる幸ゆへに大勢を  
逃されたる火難あり一物も残すも一嗚呼危うく

龜井戸住玉蘭齋今候の急変と逃す用天祥川の境より江戸の  
方より四方を逃す火災起り家倉危等の形も再々被  
はるると云はれ人安さるるおは侍と名を傳写真書と云ふ出ま





四月ヨリ 天神川通り堤上ヲ江戸ノ方ニ見ス



四ノ月ヨリ 天神川通り 堤上ヲ 江戸ノ方ニ 見ル

Vertical text on the left margin, likely a title or descriptive text, written in a cursive style.

深川富直見様小一の組番人足利氏所とのあり右地裏にて其家後一と妻を有  
 殿中一と子傳小怪我あり一亦小傳小物音さくは一と有るは後乃と名流りる小正小  
 小美原左京兼左衛門の玄園宗師一飯中御守くは後其申小流喚多切中一と小方小但  
 大木板倉若と初源侍廿九人の殿中一程又其礼の中より廿五人と申一と有る者其言を速  
 妙月院及城主のと秘之とて小の在り所於てと有る後家の中へ入入御厄を尋尋宗秘  
 中一侍申傳せ玉園小安安をせまうま有る者其外三ヶ所の火を消又十二人の秘中  
 併一は中の人而死之は内内と下下る速馬御前御前一其美ありと有る一其小方其言を小  
 殿までと由由使使を一六月五日と酒より言入所所御前一在て當所の此集金百兩を以て永代  
 十人其持て仕事方其後作作をさくまけ其の美妻一一流の難儀中中に惟  
 利美の者ありん亦亦は言言御前御前の世を世と有る御前御前一と存存小言の利利ありと有るは其言を  
 ともいふは二三重り大教大教しては有る美言ありん由由言言一と有る言言御前御前あり思思ひ  
 凶難あり天地の思思見ありあり人間の思思見あり其其人の心申申ひありとあり一

- △扇橋を不くと伊賀橋下中死秋元橋中中死源波橋下中死永井橋中中死
- △後橋下橋大橋南橋下中死は是哉と所ありと有る一悉く死死なり
- △上橋色とく仙仙着橋中死久世橋中死久世橋中死又町久世橋中死石垣等
- △病病ざる所が一日雨收豊橋中死秋田橋中死多目向橋中死大橋橋
- △日中万幸橋を大彼と有る一日本雨一日本橋石垣等と皆のうち
- △并後一と有△日雨女天社大彼を御御徳碑小恙あり
- △六新大橋高方より舟あり其日か町か火日雨も及中死八橋橋四日は橋
- △丁年年寺あり日雨も方方要要はる小原安教水ありお水橋下丁二丁八高門二丁
- △日雨は教教あり一と有は橋神社大の中へあり小原安教水ありは道道恙あり
- △七日雨向方あり下丁二丁焼日雨長巻もと有る由方小あり橋下あり
- △六水橋下中死あり下丁神明宮大の中へあり日雨小原安教橋下中死
- △井上河内橋下中死あり深川元丁寺橋下二丁日雨右田橋は橋ありあり

天香傳

...

東洋寺

青松寺

羅漢寺

宗延寺

慶印寺

共樂寺

壹慶寺

曹洞 ありま下  
法華 下谷  
同務 後草  
西本 寺  
後草 後草

洞雲院

時宗 後草  
日滿 寺院代

諸行無常

生是生滅亡

妙法蓮華經  
...



今世の地を履めて  
横死の人民を哀れ  
天災とイヤアキラ  
不使の田をよみつこ  
十月二日より左の古院  
かまひて法儀鬼修り  
作存まじあり

天台 東叡山 摩訶  
後醍醐天皇御代

浄土 本所 回向院

古義真言 芝三本 攝  
高野山 根本 在 番 西南院

同 麻布 白根 彦所 系 簡院

新義真言 大 獲院

法華宗 曹洞 東海寺

法華宗 曹洞 青松寺

法華宗 曹洞 羅漢寺

法華宗 曹洞 宗延寺

法華宗 曹洞 慶印寺

法華宗 曹洞 共樂寺

時宗 後草  
日滿 寺院代

洞雲院

妙法蓮華經  
諸行無常  
生是生滅亡

警の山 凡  
五文 尊  
百一



之町丁由方より掃く止るはを大彼大小為新焼日あり

八 日東方源川町丁焼るはを武家町町とも大の山焼る

九 日由方源川の丁二丁焼るはを武家町町とも日下海岸石屋悪く焼る

△本町ありおくらやん向院平寺の寺平新焼るはを清樓堂法也備碑倒り家々外

修房亦大彼換は由方由方武家町家々大彼換為家基多し

十日由方相生町町目々又丁目線町一丁目武丁目生を焼る日新河巻

石垣當日由方陣中や一尺との月小庭大彼換為亦多し 日東方松平

筑後換下中尺永倉丁入丁と焼丁を武家町家々大彼換為亦多し

十一 日東方線町一丁目武丁目焼ると丁目出町目又丁目花町を焼る日

由方松平線町換下中尺植村常刀換由方武家町家々大彼換為亦多し

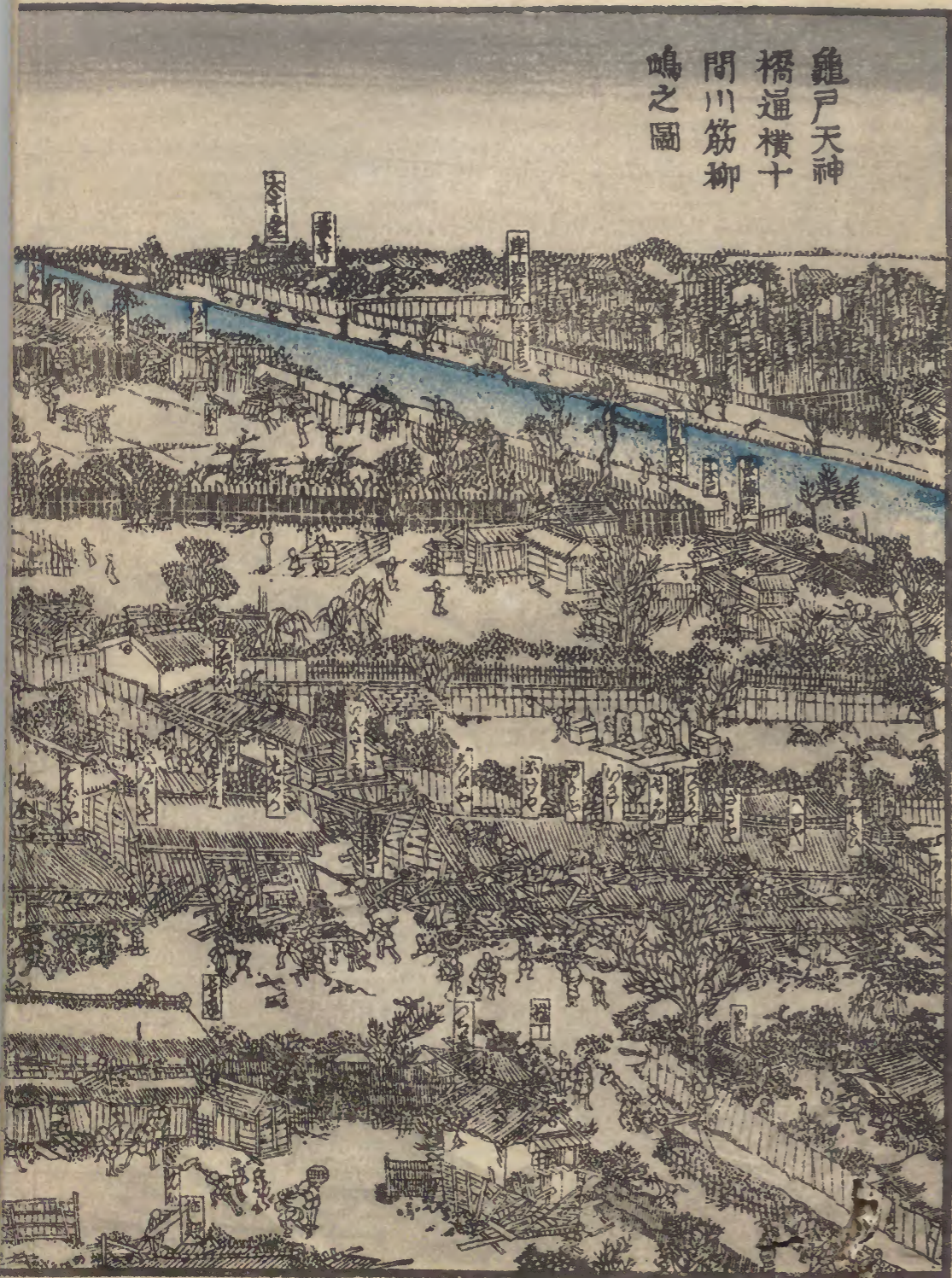
十二 小本町石系牛は赤線町妻夫小路一丁余力ける△はを武家町家々大彼

換為亦教と赤巻紀一節





龜戸天神  
橋通横十  
間川筋柳  
嶋之圖







筑後橋下中丸永倉丁入口丁七崎丁と武家町家方丈被換高雨多一  
 土 日東方縁所一丁目武丁同焼了二丁目妙正丁目及丁目花町寺宅焼了日  
 中丸松平様也換下中丸植村常乃換中丸武家町家大被換可<sup>久也</sup>為多一  
 土 小本石系牛口希様而安矢小路一丁余力了△此色武家町家方丈被  
 換高雨被<sup>多</sup>志<sup>多</sup>紀一<sup>多</sup>

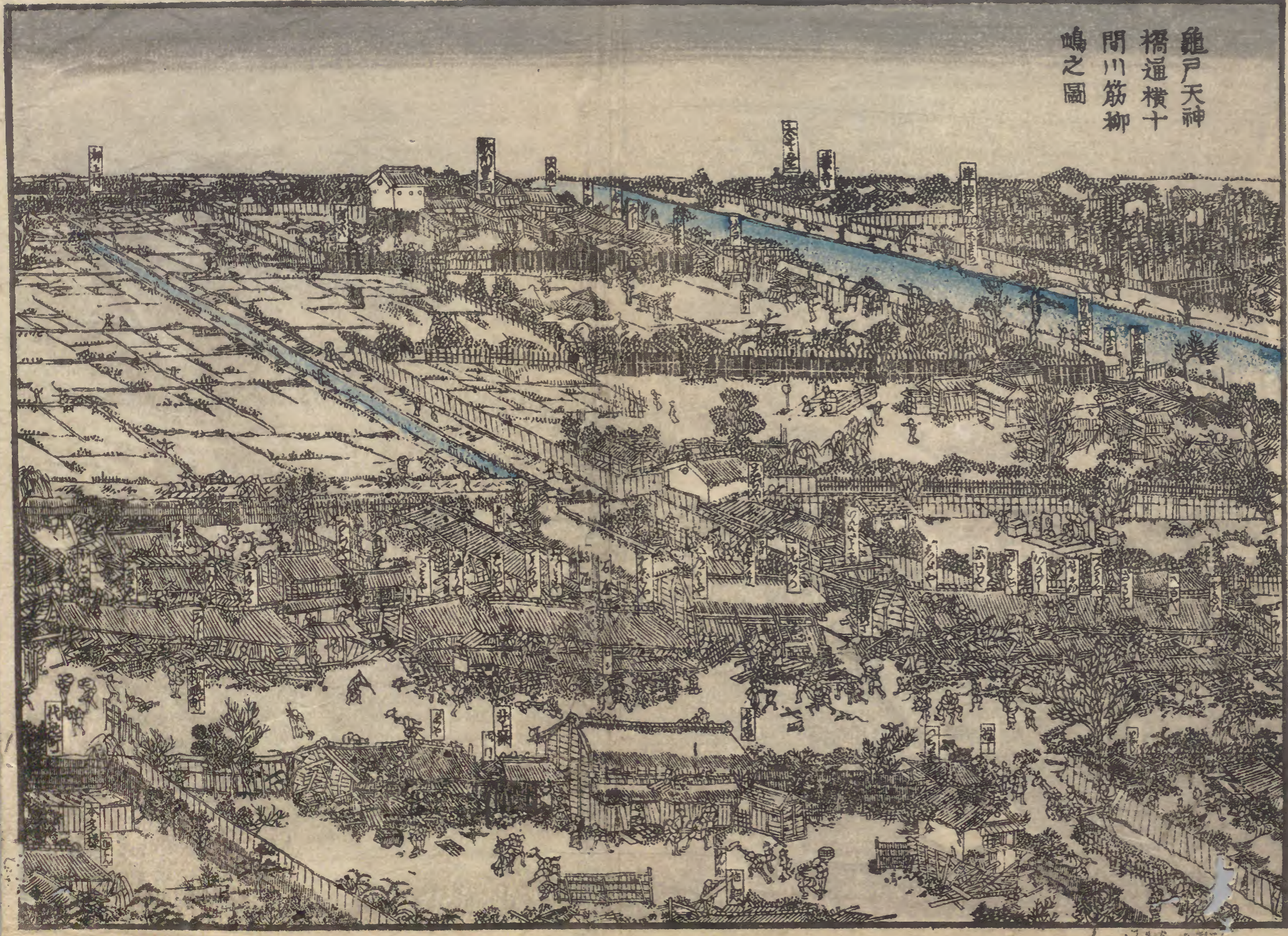
龜戸天神  
橋通横十  
間川筋柳  
嶋之圖



馬舟  
國周重

天徳寺

龜戸天神  
橋通横十  
間川筋柳  
嶋之圖



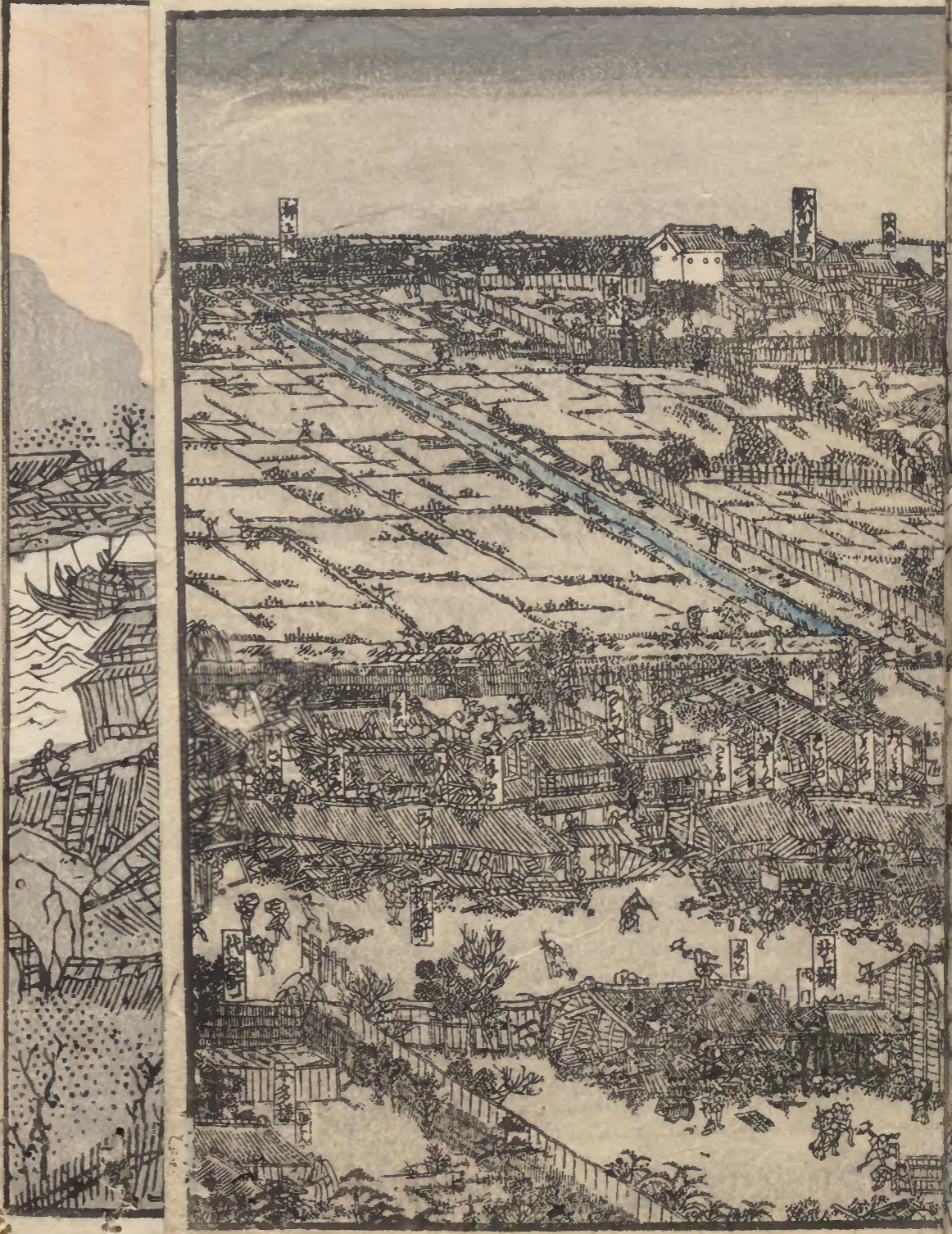


十三 月中之石系丁武丁アケル南割下あり武家小甲辰島と所家より  
 洗あり破換去飛去体ありものを下り

十四 月小方石系所荒井丁二丁焼

十五 月小方小割下あり丁ま丁橋より月小松平周防換中甲辰島換下あり  
 細川能中換中甲辰島換小倉高あり今日東方折島妙元重を突外ハ流是

此島勅士塔を具外口方の小甲辰島換是家具多し小松村名取と名



十三 月中之石系丁武丁アケる南割下あり武家小甲辰為之町家より  
 洗水破換古飛去体ありのまき下あり

十四 月小方石系町荒井丁二丁焼

十五 月小石割下あり丁幸丁焼了月雨半周防換中甲辰被換下あり  
 細川能定換中甲辰焼料理小倉倉中あり△月東方折高妙見堂を火外ハ流さ  
 け色劫士堀色具外四方の小甲辰辰家基多し小松村石系中  
 能作堂を火換内大破換

十六 東南方本不火の月渡一湯源六指丁才丁余アケるけ色以の外破換焼失  
 同お之月雨石垣ハ大川と為下多し多く川端相益為其外川中へ入る  
 後礼の入りあり

十七 龜戸天神社を火換内大破換月雨才丁二丁焼了又月雨角内火番所より  
 出火け色小火雨く小ありね文を垣小や一辰辰家為家洪家多く丸焼矣月雨の示

多一△啓事本下川を八百餘漢を介して辺り方尚多き多くは家亦悲死  
大日方方法想とつあか村下を介し側とも焼く△之國福あり白藤社内未母も  
栲岳塚向島一系△日溜田川の方を宿大栲向と分ハ界之南方風が結成也  
大破換中村小尚生家あり

先小塚系下西側焼く此地最揺揺く去勢亦妙なる一日本方中村下大破  
換法家多く焼失日あり日本方山谷涉系下二日本方先者下妙も然下  
二日本方系も妻慶も乃林も日本側家傳も福壽院宗林も此を先照も  
源照も日二日本ととも日二日本大妻も昔向も日本東側源系も瑞泉も妻慶も  
通照も主介鏡の比もまての中法宗も院本も修房碑焼給一切破換の交  
巻くも一紙





